



感激あれ若人よ！夏の総体

校長 赤松 弘一



期末テストが終わり、1学期も残りひと月となりました。昨日は総体の壮行会が体育館で行われました。新型コロナ感染防止のため、全校生徒が集まることができないので3年生だけで行われました。思えば部活動も常にコロナのために制限を受け続けてきました。去年は総体そのものができず、代替の大会を行った競技もありました。

今年は感染防止のための制限はありま

すが、大会が実施できてよかったと思います。25日からの（野球は24日から）大会に向けて体調を整え、けがの無いように最後の練習に取り組んでください。3学年がそろって活動ができるのはあとわずかです。その後は、1、2年生は3年生からバトンを受け取り、新人戦に向けてしっかりと部をまとめていってください。

「感激無き人生は空虚なり」これは、私が中学校3年生の時の担任の先生が卒業に寄せて贈ってくださった言葉です。総体に当てはめれば、「勝利して感激の涙を流すことも、負けて悔しさのあまり流す涙も、ともに素晴らしい生き様だ」ということでしょうか。勝利を信じて我慢を重ね、厳しい練習に耐えてきた。しかし負けてしまった。悔し涙が止まらない。こんな経験はきっとその後の人生において大きな糧となるでしょう。「負けたけれど悔しくない。あまり応えない」というのでは、やはり初めから勝負から逃げ、努力を怠ってきたということではないでしょうか。そこには感激や感動はないと思います。「本気で、全力で、人の目なんかにとらわれず、自分のすべてをかけて挑戦する姿」、これ以上にカッコよく、人にも感動を与えられるものはないでしょう。

皆さんはいろんな可能性を秘めています。これからそれがどのように形になるのか、今はわかりませんが、若い今は「何事によらず真剣に、結果を計算せず我を忘れて頑張る」そんな自分に出会ってほしいと思います。

3年生の皆さんは最後の総体です。2年余り努力し、流した汗が一つの結果を生みます。重ねた努力は、勝敗だけではない輝く感激となって実るでしょう。1・2年生の皆さんは今からそんな1年後2年後を目指して頑張ってください。



まぶしいほどに輝き
真つ白な灰だけが残る